

2024年5月1日
第575号
(毎月1日発行)

咲いたネット
URL：
http://www.saitanet.or.jp
Eメール：
saita@saitanet.or.jp



発行所
埼玉県労働組合連合会
〒330-0063
埼玉県さいたま市浦和区高砂
3-10-11 第一木村ビル
TEL 048-838-0771
FAX 048-838-0775
編集発行人
埼玉県労働組合連合会
【定価】1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

埼労連第51回評議会

埼労連は3月23日(土)、10時から、東大宮コミユニテイセンターで第51回評議会を開催しました。

当日は16単産・23地域組織の評議員64人、幹事会・その他傍聴など、全体で100人以上が参加し、第1号議案の「年度前半の活動の到達と教訓、後半の重点となる取り組み」を賛成多数で可決し、役員補充選挙を行いました。

今年の評議会は、昨年続き、完全現地参加の1日開催とし、コロナ禍以前のスタイルに戻しての評議会となりました。



議案を採択

各組織の討論では、20組織から発言が

年度後半の重点となる取り組みについて提案、第35回定期大会で確認した4つの重点に沿って、年度前半の経験と教訓を報告しました。



会場の東大宮コミセン

あり、AOI労連と郵政産業ユニオンから、ストライキの実施と地域からの支援について、JMITUは24春闘での奮闘、比企労連は吉見町での会計年度任用職員の組織化、所沢地区労はケアユニオンの組織化に向けた訪問などとりくみ、草加八潮地区労は、全国一律最低賃金を実現するための草加市議会での意見書採択までの運動、埼労連女性部はジェンダー平等のとりくみの到達と各組織での運動強化の訴えなど、議案を補強する立場での討論となりました。



全体で20人が発言

討論を受けての総括答弁では、職場と地域の連携づくりを前進させた24春闘でのとりくみをさらに広げ、評議会では、改憲阻止のとりくみや最賃闘争など、中心となる運動を組織強化・拡大につなげ、とりわけ労働組合の世代継承を進めていくための「次世代対策」と、女性の活躍推進と運動への参加は喫緊の課題であることをあらためて共通認識とし、とりくみを前にすすめていくことが確認されました。

役員補充選挙では、埼高教の小野知二さんが副議長に選出されました。

紙面から

- 第51回評議会 (1面)
- 地域運動交流会 (5面)
- 建交労トラック部会宣伝 (2面)
- 生計費調査コーナー (7面)
- 最賃ビッグアクション (4面)
- 埼労共のページ (8面)

トラックドライバーの窮状を訴え 建交労トラック部会が宣伝

建交労埼玉トラック部会は4月5日(金)に、全国のトラック部会と呼応して、組織拡大宣伝行動に取り組みました。今回の行動には、各組合の代表7人が参加しています。運輸業は2024年問題が叫ばれるほど人材不足が深刻な状況で、今回の宣伝はそうしたトラックドライバーの窮状と産業全体の労働環境の改善を求めて実施しました。

当日は、まずJR武蔵野線・南越谷駅(東武スカリツリー線・新

越谷駅)のロータリーで宣伝を実施。音出し宣伝での訴えとチラシ入りティッシュ500セットを配布しました。
駅頭宣伝の後は、越谷市内の流通団地に移動して、宣伝カーでの流し宣伝と、ドライバーへのチラシ配布を行いました。最後に、東部スカリツリー線・獨協大学前駅に隣接する松原団地(約6000戸)のなかに2800枚のチラシを配布しました。

(建交労発)



南越谷駅ロータリーで訴え

1890年5月1日、再度ゼネラルストライキを構えたアメリカの労働者のたたかいにヨーロッパ各地の労働者が応え、世界的な労働者の祭典としてのメーデーが誕生しました。
日本では「8時間労働時間制実現」や「失業防止」などの要求を掲げ、1920年(大正9年)5月2日に東京・上野公園で初めて開催されました。その後、メーデーは全国各地に広がりましたが、

第95回埼玉県中央メーデー

5月1日(水)に、第95回埼玉県中央メーデーが北浦和公園で開催され、前夜祭なども含め県内各地で地域メーデーが行われました。

メーデーの起源は、1886年(明治19年)5月1日、アメリカ各地で8時間労働制を求め35万人がストライキに立ち上がったことに起因しています。12時間から14時間労働が当たり前だった当時、

「8時間は働き、8時間は休み、8時間は自由な時間」で暮らすことが働く者の大きな要求でした。

二・二六事件が起きた1936年のメーデーは禁止され、1945年の敗戦まで開催されませんでした。

戦後最初のメーデーは敗戦翌年の1946年。敗戦の混乱で食料不足が深刻な折、「食料の人民管理、働けるだけ食わせる」などが掲げられ、戦後メーデーの歴史は平和と民主主義を守る歩にもなりました。

1960年代半ばには「ベトナム反戦」、物価高騰からの生活擁

護が掲げられ、1970年以降の、春闘での1万円超えの大幅賃上げ、1980年代以降には、核兵器廃絶や所得税減税、労働法制の改悪阻止、格差是正と貧困の解消など、その時々課題や政策要求が掲げられてきました。

今回のメーデーでも、物価高騰に苦しむ労働者・国民の生活改善と平和で格差の無い社会の実現を求めて、メーデーに参加した仲間アピールし、労働者の祭典を成功させました。
(第95回埼玉県中央メーデーの詳細は次号掲載)

集まろう! Let's GO! つながろう!

MAY DAY

2024 第95回メーデー

変えるのは私たち
ひとりひとりが大事にされる社会へ

雇われ増税 NO!
NO WAR
給料 UP
被爆者支援
1500円
ジェンダー平等
GO VOTE!

働くものの団結で生活と権利を守り、
平和と民主主義、中立の日本をめざそう

第95回 埼玉県中央メーデー

2024年5月1日(水) 北浦和公園 9:30~文化行事 10:00~式典

デコレーションコンテスト
お楽しみ抽選会
あります!

主催 埼玉県中央メーデー実行委員会 共催 北浦和地区連 10-11 第一村ビル2F 増勢事務所
協賛 労働組合連合会 協賛 労働組合連合会 協賛 労働組合連合会

1500円以上の実現を訴え 各地域で最賃・メーデー宣伝

鴻北労連

鴻北労連は4月17日(水)の夕方、北本駅で「物価高騰から仕事と暮らしを守るために、大幅な賃上げと処遇改善を」との宣伝行動を行いました。

今回は、「建築技能者の低賃金と長時間労働で建設職人が年々減ってきている実態を知ってほしい、安心して暮らせる住環境・未来ある建設業へ改善させよう」と訴える宣伝行動で、4団体18人が参加しました。

北足立南部地区労

北足立南部地区労は、4月17日(水)の午後5時30分から北朝霞駅前ロータリーで、メーデー参加呼び込み宣伝と最低賃金宣伝を行いました。

また、「全国一律最賃制をつくり、時給1500円に」、「仕事

当日は、朝志和土建4人、新座土建3人、年金者朝霞1人、年金者新座1人、新座市職1人、SUあさか地域支部1人、地区労1人の7団体12人が参加して300個のチラシ付きティッシュ配布と、「最低賃金を1500円

鴻北労連 ニュース

2024年4月号

鴻北地域労働組合連合会事務局
北本駅前717-2172 埼玉工業大学

職場と地域をむすび、大幅な賃上げを!

北本駅で大幅賃上げの宣伝行動を実施!

4月17日(水)夕方、鴻北労連は北本駅で「物価高騰から仕事と暮らしを守るために、大幅な賃上げと処遇改善を」との宣伝行動を行いました。今回は、「建築技能者の低賃金と長時間労働で建設職人が年々減ってきている実態を知ってほしい、安心して暮らせる住環境・未来ある建設業へ改善させよう」と訴える宣伝行動には、4団体18人が参加しました。また、合わせて、「全国一律最賃制をつくり、時給1500円に」、「仕事でお困りときは埼労連・鴻北労連の労働相談に」と呼びかけました。小雨で機嫌を急ぐ人々もチラシ・ティッシュを手を伸ばして受け取ってくれました。

SU中部支部が森林浴で交流!

3月31日(日)埼玉ユニオン(SU)中部支部は、「春のお出かけミニツアー」として北本自然観察公園に行きました。桜はまだ咲いていないのに気持は初夏! 参加し始めたばかりのウエイズのさすりが響く中、池沼をめぐる、「マイナスイオン浴びてよ! きつとセロトニンが出るよ!」などとはしゃぎながら散策を楽しみ、山桜がほころび始める森の下で、さあお弁当! 「買い出し班」フォイスの提案がとてもおもしろかったです。遠方からのゲスト2人が、職場の理不尽への怒りと強さを話してくれました。会社とのたたかいはたいへん...でも仲間がいるから...。職場や地域で仲間づくりを! という思いが強く交流でした。(k.s 記)




署名に協力してくれる人も(北朝霞)

以上に」と訴える埼玉労働局宛ての署名への協力を呼びかけました。

宣伝では、参加者が恒例の赤い最賃Tシャツを着て行い、最低賃金の署名への協力を呼びかけたところ、若い人が「全労連ですか、がんばってください」と署名に協力してくれました。

メーデーの事前宣伝も兼ねておこなったことから、松本議長が、5月1日朝霞中央公園開催のメーデーへの参加と最低賃金を1500円以上に訴えました。

市民と共同で大型開発見直し求める

昨年、熊谷市は現存の市立体育館の建て替え案を公表、観客席3500、総工費100億円の巨大体育館でした。現在の、老朽化し空調もない体育館の建て替えは多くの市民の要望ですが、しかしそんな大型体育館は望んではいません。年間維持費1億円、市民の憩いの荒川公園の半分が体育館で塞がってしまいます。

静かな環境の維持を望む近隣市民と、地域労連も加盟する「公共施設統廃合を考える会」で、複数の議員の協力も得て、大型体育館の建設見直しの請願を議会に提出、12月議会冒頭の本会議での採決で請願賛成19、反対9で可決されました。しかし請願採択のために文

寄稿のお願い

埼労連では、各組織の春闘活動や行事の記事と写真を随時募集しています。

とりくみの全体像が見える写真と、600文字程度の記事を埼労連まで送ってください。

埼玉連新聞や、推進ニュースで紹介させていただきます。詳しい内容は、機関誌担当(加藤)まで。

組合行事・青年行事・学習会など、気軽に寄稿してください。

※寄稿時期によって、紹介できない場合もありますのでご了承ください。

(熊谷地域労連発)

最賃ビッグアクション

4・10最低生計費調査スタート集会

4月10日(水)の午後7時から完全オンラインで開催した最低生計費調査スタート集会を行い、13単産・14地域のほか、アドバイザーや埼労連事務局から70人以上が視聴しました。

主催者あいさつの後、前回も生計費調査の監修をお願いしている中澤秀一さん(静岡県立大学短期大学部准教授)から「いま生計費調査にとりくむ意義について」と題した講演を受け、続けて埼労連・加藤幹事から「人間らしい暮らしを実現するために最低生計費調査の実践」として行動提起をおこないました。

講演と提案を受けての30分間の質疑では、「若年層の集約が強調



されているが、60代以上は対応しなくていいのか」、「世帯の考え方として、二世帯はどうなるか」、「ペットは(持ち物として)入らなくていいのか」など、記載についての率直な質問や、「『最低生計費』や、『普通の暮らし』を組合員に一言で説明するには何といえいいのか」、「目的の意義5つの中の『賃金と社会保障の関係』について、詳しく聞きたい」など、役員自身が理解を深めるための質問が出された。

中澤さんは、「調査をすることが目的ではなく、結果をどう生かす、活用するかが大事であり、調査の流れのなかで、組織の力が強化されていく」と強調し、参加者の中で最低生計費調査にとりくむ意義について、一定の理解が広がった集会となりました。

(「最低生計費調査に取り組み意義」についての詳細はニュースで掲載していきます)

浦和駅での4・13最賃宣伝

4月13日(土)、埼労連として毎月行っている最賃公契約適正化委員会と労働法制連絡会の宣伝を最賃ビッグアクション行動に位置づけ、12時30分〜13時30分まで浦和駅東口で署名宣伝をおこないました。この宣伝は、埼労連幹事会後におこなったこともあり、幹事会役員を中心に新婦人やうたごえ協議会の仲間など51人が参加。日本共産党からも激励のスピーチがありました。



署名やシール投票



を筆頭に生協労連・医労連・自治労連・JMITU・埼教組・埼玉土建・建交労・自治労連・全国一般・青年部・女性部・埼高教の仲間が順番にスピーチ。人手不足の中、職場が疲弊している実態やケア労働者の低賃金など切実な実態が次々と話され、足を止めて聞き入る人もいました。

参加者はビラ配布のほか、シール投票の呼びかけや「最低賃金を全国一律に。今すぐ1500円以上に引き上げを」とした署名にもとりくみました。

シール投票では、「最低賃金時給1500円は安い?高い?」「最低賃金 時給でどれだけ必要?」の2つのテーマでとりくみ、時給は2000円以上必要という回答が圧倒的な中、賛同した方からの署名は24筆が集まりました。



最賃音頭で訴え

うたごえ協議会の人達がトークの合間に「最賃音頭」を熱唱すると道行人たちからの注目度も高い宣伝になりました。



仲間がリリースピーチ

次世代の結集をテーマに2年ぶりの開催 埼労連地域運動交流集会

埼労連が2年ぶりとなる地域運動交流会を4月6日(土)午前10時から埼玉会館会議室で開催しました。19地域組織28人のほか、埼労連組織拡大推進委員会、埼玉土建、年金者組合などから全体で48人が参加しました。

午前中は埼玉土建次世代対策部担当・朝野明憲さんから「埼玉土建の次世代対策部づくりとその後の活動」をテーマに講演してもらい、3つの地域組織からの事例報告(さいたま地区労、飯能日高地



各地域から48人参加



朝野さんの講演

労連、草加八潮地区労)と宍戸事務局長の問題提起を受けました。

午後は6分散会に分かれ討論。地域組織で次世代部づくりはどうしたらできるか、「そこまで手が回らない」という現状をどう克服していくかについて、突っ込んだ意見交換をしました。当面の取り組みとして、最低生計費調査を地域組織としても積極的に行い、次世代の仲間と協力してもらうことなども意見交換できました。

感想文の「組織で検討したいこと」では、自身の組織のなかで、次世代層をどう結集してもらうか



草加八潮地区労



飯能日高地労連



さいたま地区労

の具体化を図りたいという意見が多く、今回の地域運動交流会が次のステップへの足がかりを築ききつかけをつかむ交流の場になりました。

分散会の討論の詳細は、春闘活動レポートに掲載しています。

埼高教が新任式宣伝

埼高教は4月2日(火)の朝、快晴に恵まれたなか、毎年恒例となっている教員の新任式会場前での宣伝行動を行いました。

当日は18人の組合員が集まり、リニューアルして見やすくなった教職員権利一覧パンフレットを資料の表紙にして配りました。

資料を配布していると「そのパンフ、学校でもらいました!」という嬉しい反応が返ってきました。すでに各学校職場で新転任者歓迎グッズとして配布されていた



新任者にリーフ配布



18人の仲間が参加

のです。埼高教運動の基盤である各学校の分会がしっかりと活動している姿が見え、今年も旺盛に組合活動が進められる予感です。

宣伝前の4月1日から、組合への加入の申し込みが続々と届いています。新しい職場で困ったとき、埼高教を頼りにしてくれる人がたくさんいます。また、若い教職員を中心に、「学びたい!仲間とつながりたい!」という理由で組合加入が続いています。

これからも仲間を増やし組合運動をさらに発展させていきます。

(埼高教発)



小人数の職場は対面で説明

新卒採用者に組合説明会 コープネットグループ労働組合

コープネットグループ労働組合では、新卒採用の職員に対し、毎年4月に労働組合の説明と同期どうしの交流会への参加を案内しています。

4月16日に、宅配の配送を受託している「トラストシップ」に入社した5人への説明会を開催。18日にはコープみらいに入職した90人、生産事業を担う「コープデリ

フーズ」に入社した2人、物流事業を担う「協栄流通」に入社した4人への説明会を開催しました。

コープみらいのような90人対象のオンラインによる説明会では難しいですが、対象が少数で、対面で開催したグループ会社での説明会では、「今まで生きてきた中で最も嬉しかったことは？」をテーマにチェックインをやって盛り

上がりました。

どの説明会でも、労働組合は自分の暮らしをより良くしていくために、自分一人ではできないことを協力してやっていたためにあることを説明しています。また、労働組合の主人公は一人ひとりの労組員であり、職場での話し合いが出发点であることも伝えていきます。

6つの目標めざし仲間ふやし 年金者組合

年金者組合埼玉本部は4月準備期間、5月から6月までの仲間増やし月間が始まりました。県本部では、昨年の月間に続き「①今の岸田政権による高齢者いじめにはだまっていられない、②高齢者の要求を実現するためには大きな声が必要、③大勢集まれば楽しいことがたくさんできる、④高齢者が安心して暮らせる場が広がる、⑤増やさなければ組合は小さくなっていくのが年金者組合の宿

命、⑥財政が豊かになれば、諸活動がより豊かになる」を確認しています。

春の月間については、①拡大数を300人以上とする、②昨年の第35回定期大会時(9428人)を突破し、第34回大会時(9568人)に近づける、③すべての支部で成果をあげる、④目標達成支部20支部以上をめざす、⑤中央本部の新聞、共済についても支部目標を設定する、⑥支部自主目標設

女性の市民連合が共闘訴え

埼玉連や加盟組合・民主団体も参加している「野党共闘をすすめる埼玉女性の市民連合」が4月19日(金)の午前11時から、「戦争

国家へ突き進むことはゆるさない」と、浦和駅東口で宣伝行動を実施しました。

女性の市民連合は、毎月定例で宣伝を実施していますが、国会で防衛費の増額や次期の戦闘機の海外輸出などを強行している岸田政

経緯に対しての抗議の訴えとともに、参加者のお思いや怒りを、プラスターなどに込めてのスタンディング宣伝となりました。

宣伝には埼玉土建主婦の会からも大勢駆け付け、全体で33人の参加で駅の利用者などにアピールしました。

埼玉連からは、渋谷幹事と船橋幹事が参加しています。

定の際の考慮事項として、高齢者人口比1%達成をめざす、すべての支部で2月末現勢の5%増をめざす、最高時より現勢を減らしている支部は最高時に到達する目標を設定する、3年後、5年後の展望を見据えての目標設定、などを呼びかけています。

県本部は月間成功へ向けて、4月にブロックごとの決起集会を実施するとともに、5月6日(月・祝)には月間促進のため、全県支部長・書記長会議を開催して奮闘しようと呼びかけています。

思いをプラスターで訴え



思いをプラスターで訴え

24春闘・全国の賃上げ状況

24春闘の全国の状況は、4月4日の第4回目の賃上げ集計で、21単産・部会から報告が寄せられ、回答引出し組合は、前回調査(3月28日:670組合)から124組合増え、794組合となりました。

回答引出し組合のうち、金額もしくは率が明らかにになっている有額回答は473組合で、前年同期(2023年4月6日現在)を下回っています。

有額回答を得た組合での単純平均(一組合あたりの平均)は7853円・2.92%となり、加重平均(81組合)を45組合上回る126組合となりました。



24国民春闘共闘賃上げ第4回集計
単純平均 7,853円・2.92%、加重 7,312円

国民春闘共闘委員会(全労連、純中立労組、地方共闘などで構成)は4月4日、第4回目の24春闘賃上げ集計を行いました。

調査状況	2024年	2023年同期
回答引出し組合	794	777
うち 有額回答	473(59.6%)	498(64.1%)
うち 「定率増額」など宣言による回答	321(40.4%)	279(35.9%)
うち 2次調査以上の回答	88(11.1%)	96(12.4%)
うち 要結組合	191(24.1%)	233(30.0%)

集計方法と対象	2024年要求	2024年回答	2023年同期	同期比
単純平均	額(円)	7,853	6,368	+1.485
	率(%)	2.92	2.38	+0.54
加重平均	額(円)	7,312	5,919	+1.393
	率(%)	2.40	2.07	+0.33
組合員数	50,486	61,615		

前年実績との比較が可能な組合における金額・率の比較						
	前年	前年実績以上	前年実績	24年要求	23年実績	
単純平均	額(円)	395	273(69.1%)	239(60.5%)	8,056	6,875
	率(%)	256	157(61.3%)	146(57.0%)	2.93	2.56
						+1.181
						+0.36

非正規の仲間の回答状況					
単純平均		時給制		月給制	
		額(円)	率(%)	額(円)	率(%)
		43.0 (31.5)	4.21 (2.93)	4,982 (4,538)	4.17 (2.93)

※額または率のみの報告があるため、双方は運動しません。
※金額による回答は平均などの算算から除いています。
※非正規の仲間の回答状況のグラフ(1)は前年度最終集計の結果

まだ有額回答引出し組合が少ないものの、福祉保育労の保育職場で10767円、9475円の回答を引き出すなど、春闘後半戦にヤマ場を迎える産業でも高水準の回答を引き出しており、4月1日から13日の回答促進強化旬間も起点にしたたたかいが各職場で進められています。

パートやアルバイトなど非正規雇用で働く仲間の賃上げ状況は、9単産142組合から339件の獲得報告が寄せられています。このうち時給制労働者では211件の獲得となり、引き上げ額が判明している174組合の単純平均額は43円となっています。引上げ率は26件平均で4.21%で前年実績(31.5円・2.93%)を額で11.5円、率で1.28%上回る回答を引き出しています。

24春闘は、まだ続きます。みなさんの関りのある職場での奮闘を励まし、物価高騰に負けない大幅賃上げと、これから本格的に始まる今年の最賃闘争で、最賃の大幅引き上げと全国一律最賃制度実現を求めるとりくみにつなげていきましょう。

今年も佐賀で非正規集会を開催

非正規雇用労働者の要求実現を進め、組織を強化していくために『第32回非正規ではたらくなかまの全国交流集会』が、6月1日(土)2日(日)の2日間で開催されます。開催場所の関係で今年も現地参加とオンラインの併用となります。

まだ組合を知らない多くの非正規の仲間にも声をかけ、一緒に運動を進めていくための集会でもあります。各組織で非正規労働者の



最低生計費調査推進コーナー

4月から「最低生計費調査」のとりくみを始めています。

調査の正確性を高めるために多くの組合員のみなさんの協力が必要です。各組織の役員から協力の呼びかけがあった時は、積極的に参加してください。

このコーナーでは、今後とりくみの到達や寄せられた質問の特徴などを紹介していきます。調査に関する疑問などがある場

合は埼労連までお問い合わせください。

調査票の回収は6月末までです。ご協力をよろしくお願ひします。



全労連共済が春の拡大月間スタート集会

4月9日に全労連共済「2024年春の拡大月間スタート集会」がオンラインで開催され全国で140人余りが参加しました。

強調されたのは、①組織共済の加入で組合員が個人共済を利用できる条件を得ること。②声をかけて対面で共済の内容を紹介することです。そして具体的な内容では、例えば火災保険について民間保険料掛金は2014年比で1.4倍以上になっており、全労連共済の火災共済に切り替えれば4割の掛け金で利用できるなどのメリットが示されました。



このような状況のもとで、2025年4月から自然災害特約制度が始まる（掛金2倍で保障は風水害3倍、地震2倍）ことから、成約にはなりません。キャンペーンを利用しよう！

全労連共済・推進協議会の 組合員と家族のための 労働組合共済



の対象としています。火災共済に限らず、医療共済や自動車共済など、ほぼ同様の保障内容でも掛金

は、お手に取り加入・見直しを考えてみませんか！

加入をすすめてくれた 仲間に感謝!

休日にバイクに搭乗中、並走していた隣のハイエースの不注意による事故で大けがをし、入院と自宅療養で3か月仕事を休みました。すすめられて入った共済でしたが、150万円を超える給付を受けました。心配をかけた家族と共済をすすめてくれた仲間に感謝です。(東京都 S・Eさん)

差額にびっくり! 節約できました

執行委員会で、火災共済が話題になり、加入中の証券で見積もりをしてもらったら、差額にびっくり。早速共済に切り替え、年間4万円ほど節約できました。共済は仲間どうして助け合え、家計にも優しい良いしくみですね。(熊本県 S・Nさん)

5月の上映案内

5月の上映は「不思議の国の数学者」です。

「正解を出すより答えを導く過程が大切」脱北した天才数学者と挫折寸前の劣等生が、数学を通して人生を見つめ直していく物語。今を生きる私たちに共感と希望、励ましのメッセージが込められた心温まる感動作です。

日時 5月28日 (火)



場所 埼玉会館小ホール
① 10時30分
② 14時
③ 18時30分
埼玉共済専用当日精算券をご利用の場合、特別価格900円でご覧いただけます。

フードバンク

第98便

3月半ばから4月初めにかけての埼労連フードバンク活動は、SUなどから提供された日本そば・うどん、ラーメンの麺類とレトルトカレーを4月11日(木)、フードバンク埼玉の窓口・埼玉労福協に第98便として届けました。重さは3.5キログラムになり



フードバンク第98便